

<地域福祉座談会開始までの手順>

8月 コミ協訪問

参集者

会長・事務局・社協

- ①今年度の座談会の進め方について説明
- ②事前打ち合わせ日程・参集者の決定
- ③座談会の日程・参集者の決定

事前打合せ・座談会開催案内が必要か

10月～
事前打ち合わせ

参集者

会長・役員・事務局
社協・2層SC

- ①地区別評価シート作成
 - ②地区別評価シートについて説明
- } 社協

・現計画、H30 座談会課題・2層協議体課題・コミ協事業計画を確認し、評価を行う

例えば…三役会のイメージ

11月～12月
地域福祉座談会

参集者

コミ協役員・事務局
地域福祉計画推進員
民生委員・包括
健康福祉課・社協
2層SC・構成員

第1部

「地区別課題の振り返り」と「取り組みの現状確認」について

- ①平成30年度座談会および支え合いのしくみづくり会議での地区別課題の共有
- ②各地区の取り組みの現状の確認

第2部

「課題に対する取り組みの検討」

- ①地区別課題解決のため、自分たち（コミ協・協議体）に何が出来るか
- ②取り組みの具体化

例えば…コミ役員会のイメージ

令和元年度地域福祉座談会

地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

松浜地区	1～2ページ
南浜地区	3～4ページ
濁川地区	5～6ページ
葛塚地区	7～8ページ
木崎地区	9～12ページ
岡方地区	13ページ
長浦地区	14～15ページ
早通地区	16ページ

【松浜地区】 地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
1 高齢独居等の在宅・外出が分からなく心配	<p>①コミ協で取り組んでいる挨拶運動を継続する。より自治・町内会、住民へ浸透させるため、自治・町内会単位での取り組みも必要。地域に偏りなく顔見知りの関係づくりを地域全体で推進する。住民一人一人への周知の工夫も必要。</p> <p>②住民が認知症を理解する。（たとえば認サポを学校・住民・企業へ働きかける）認知症を持つ家族の意識（認知症者を外出させない、人に会わせようとしないなど）を変えることも必要。そのためにも、認知症サポーター養成講座を学校・住民・企業へ働きかけることは有効と思われるが、効果が不明であり、地域で展開するには無理があると思われる。小中学校で開催することは進めるべき。</p> <p>③地区資源である「松浜ふれあい会」を、地域全体で活動を維持、活性化しよう協力する。自治・町内会により支援の温度差がある。コミ協福祉部やこらぼ家との連携も必要。ただし、「松浜ふれあい会」に頼り過ぎない。</p>
2 地域で支える仕組みづくり、外出できない人の支援	<p>①自治会に福祉部（福祉に関する部会・福祉担当等）を設置し、地区全体の情報共有や協働を行う。また、福祉部に限らず、自治・町内会で福祉的な活動を担っている組織（婦人部等）も対象とすべき。</p> <p>②これからの担い手となる若い人が参加しやすい事業を開催する。難しいかもしれないけれど、あきらめない！</p> <p>③これからの担い手となる若い人の人材育成・活動しやすい環境づくりを進める。</p> <p>④住民にとってどんなことが必要か、支え合いのしくみづくり会議を通じて人材育成と活動の推進を行う。また、具体的な取り組みは自治・町内会単位で進める必要があり、その方針や方法を検討する必要がある。</p>
3 災害時の不安	<p>①今後も実効性のある訓練となるよう意識して開催を継続する。（普段からの情報共有、日常からのつながりを意識）既に工夫をし内容を変更しながら実施中。継続していく。</p> <p>②災害時の安否確認の取組み（黄色い旗運動等）を地域全体で推進する。実施内容は黄色い旗に限らず、各自治・町内会の創意工夫で実施すべき。</p> <p>③災害時に自主避難できる場所を確保し、早めの避難行動がとれる体制づくりを進める。</p>

<p>4 子育て支援が必要</p>	<p>①地域・学校・PTA との子育て支援に対する連携・協力体制が必要。親向けの勉強会や相談先の周知も必要。(虐待防止等)</p> <p>②各自治・町内会で行われている、子ども見守り事業を継続実施し、さらに強化すべき。役員だけではなく、多くの住民がジャンパーを着用し、夕方に町内を散歩しながら子どもや地域の見守りなど行う。</p> <p>③子ども食堂・子どもの居場所などの子どもを支援する取り組みについて、コミだよりを通じて住民へ発信する。クロスハーバーの動きは、もっと住民に周知し活用すべき！</p> <p>④勉強会への講師派遣、企画への協力。[行政・社協側面支援]</p>
<p>5 様々な活動を支える担い手の育成</p>	<p>①コミ協や自治・町内会で実施されている各事業に若い人や親子が興味を持てる仕組み作り。PTAにも参画してもらおう。協力してもらおう方法の検討が必要。</p> <p>②支え合いのしくみづくり会議で研修会を開催するなど、支え合い活動の担い手養成を行う。「〇〇養成講座」だと敬遠し参加しない。講座のネーミングや、やり方には工夫が必要。</p>
<p>6 敬老会・サロン・老人クラブの参加者が少ない</p>	<p>①集いの場の情報を整理・見える化し、コミだよりを通じて住民への情報発信。情報を伝えることは必要。</p> <p>②参加者の少ない原因・移動手手段の調査と、取り組み方法の検討。調査は必要。なぜ誘っても来ないのか。坂道が多いから出られないのか等の疑問はある。</p>
<p>7 身近なところに集まれる場所がない</p> <p>※集まれる場所（自治会館）は地域にある。15/16自治・町内会。</p>	<p>①住民が自治会館に集まるきっかけとなるような取り組みを行う。</p> <p>②自治・町内会でも役員等一部の住民ばかりが自治会館を活用するのではなく、広く活用するよう、住民に役割を与える等、参加しやすくなるよう取組みを進める。</p> <p>③より良い居場所を作るため、居場所同士の情報交換が行える場を持つ。</p> <p>④講師派遣、企画への協力。配布物の提供等。[行政・社協側面支援]</p>
<p>8 食料品や日用品を購入できる商店が近くになく、また、近所の人にも頼みにくいため、買い物が困難</p>	<p>①高齢者世帯中心に買い物に関するニーズ調査を行う。困り感の実態把握は必要。包括支援センターでケアマネを通じて介護認定者を対象とした調査を実施予定。</p> <p>⇒同じ調査を、未認定者を対象に地域住民を通じて実施できないか。</p> <p>②従来の社会資源の活用(配達できる商店の住民情報、1層協議体の宅配・生活支援サービスや見守り支え合い活動ブック等から、活用できる内容を住民間で情報共有)と移動交通手段の明確化。松浜地区に配達してくれる店舗等の情報をもっと集めるべき。</p>

■ 住民の取組み

■ 支え合いのしくみづくり

■ 側面支援

【南浜地区】地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
<p>1 認知症の人の支援</p>	<p>①コミュニティ事業に認知症サポーター養成講座を位置づけ、子どもから大人まで認知症に対する理解を推進する。</p> <p>②太夫浜小学校区へ認知症サポーター養成講座を行うよう働きかけをし、毎年継続開催してもらおう。南浜小学校区は引き続き講座を開催する。</p> <p>③声かけを行うきっかけづくりとして、あいさつ運動を継続し、顔見知りの関係づくりを進める。</p> <p>④地域行事などに、認知症の方、認知症のおそれのある方も参加できるように、同級生同士で誘い合って参加するように呼びかける。</p>
<p>2 災害時の支援体制や備品の整備が必要</p>	<p>① 普段からのつながりを意識した、実効性のある防災訓練を実施する。</p> <p>②非常時に持ち出す物の中身の点検を行う。また、いざという時にすぐに持ち出せるように、分かりやすい場所に保管するように住民に呼びかける。</p> <p>③緊急情報カードの情報の更新を行う。</p> <p>④高齢独居世帯の方から災害が起こりそうな時は、避難所を開けて欲しいと要請があった。市からの指示以外に自治会館を解放する。</p> <p>⑤障がい者用のトイレの点検を行う。</p>
<p>3 若い人の、コミュニティ活動への関心・参加が少ない</p>	<p>① 各事業において、若い人が参画できるしくみをつくり、コミュニティ活動に対する理解を働きかける。</p> <p>②コミュニティ活動において“若い人の関心・参加”に視点をおいた事業計画を立て実施する。その際、若い人が参加しやすい日時を設定したり、親子で参加できる内容を検討する。広報の方法を考える。</p>

<p>4 イベントの参加者が少ない</p>	<p>①地域で実施されている各種事業を把握・整理し、参加しやすい事業内容の検討を行う。 ②事業周知のための広報媒体について検討し、情報発信する。 ③地域のリーダー的な人に、参加者を集めてもらうよう協力をもらう。また、参加経験者からのクチコミで参加を呼び掛けてもらう。 ④参加しやすいようにバスの用意や会場（階段を登れない等）の整備を行う。</p>
<p>5. 身近なところに集まれる場所が無い</p>	<p>① 地域の茶の間・サロン他、地域の居場所情報の整理と見える化を推進する。 ②茶の間にグループができていたりして、参加しづらいと言う方がいる。誰もが参加しやすい茶の間の運営方法を推進する。 ③足が無く茶の間に参加できない方のために、交通手段を検討し、茶の間に参加できるようにする。 ④ 支え合いのしくみづくり会議（推進員）を通じ、自治会等小単位での地域の茶の間開設と活性化を推進する。</p>
<p>6 買い物支援を必要とする人の増加</p>	<p>①交通手段は区バスやイオンバスなど充実しているので、公共交通機関を使った買い物ツアーを企画する。 ② 支え合いのしくみづくり会議で、買い物支援の課題に対して検討する。 ・今は助け合って乗り合うなどして何とかなっているので、助け合いを継続する。 ・バス停の場所を知らない人が多い。 ・宅配弁当や宅配の買い物を利用する。</p>
<p>7 公共交通の充実</p>	<p>①コミュニティとして、住民向けに区バス・住民バス活用の働きかけやPRを行う。 ②住民バス等の乗車状況を把握し、住民に活用してもらうための改善に努める。 ③公共交通を利用する学生が増えるように、バス時間（帰り）を検討してもらう。</p>

【濁川地区】 地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
<p>1 困った時の相談先が分からない</p>	<p>①濁川の地域カレンダーの最後のページなどに、困りごとの課題別につなぎ先を載せる。相談の種類別にフローチャートのようなものがあると良い。 ②コミ協広報誌は、イベントの報告や予告記事だけではなく、特集記事を年間で掲載する等、受け手に関心を持ってもらえる誌面作りに努める。目を通してもらう工夫等も必要。 ③配布物に頼らない、聴覚や視覚（カラー用紙を使用し、濁川はこの色、子ども向けはこの色にするなど）に訴えるような周知方法を検討する。 ④自治会便りを作成し、地域のイベントや、身近な話題を掲載する。 ⑤必要な情報を自治会に落として欲しい。（行政・社協側面支援）</p>
<p>2 困りごとの対応先・つなぐ方法がない</p>	<p>①地域で子どもから高齢者まで見守り合える関係性が必要。 ②地域の力を活かすしくみ、地域の支えようとする想いを対象世帯へ繋げるしくみが必要。 ③支え合いのしくみづくり会議での取り組みを継続。地域の茶の間・サロンの活性化を図るなど、隣近所との挨拶、顔見知りの関係づくり、さりげない見守りについて、住民意識を向上させる取り組みを継続実施する。 ④ござれやネットから地域への協力依頼に積極的に対応する。（ござれやネット側面支援） ⑤行政から、対象者に関するデータを提供する。（行政側面支援） ⑥つなぎ先相談先一覧表を配布する。（社協側面支援）</p>
<p>3 子育てを終えた世代の地域活動への参加</p>	<p>①コミ協や社会教育推進委員会や自治会等が実施する各種事業に、子育て卒業世代が参画できるしくみを設ける。興味を持ってもらう、誘いかけの工夫を検討する。 ②若手で他自治会との懇親会（親睦会）を行う。 ③教育コーディネーターとの連携により、コミュニティ行事に学校保護者に参画してもらう。また、こども関係のボランティアについて、住民へ周知し協力してもらう。</p>

<p>4 地域の中のボランティア育成</p>	<p>①地域をより知ることによって地域住民や民生委員とつながり、連携することで、ボランティア活動へとつながる。 ②ボランティアの育成講座をコミュニティ協議会や自治会等で開催する。対象者を地域の茶の間・サロン関係者等にするなど、焦点を絞った形での開催が望ましい。 ③支え合いのしくみづくり会議の研修会を継続し、支えあいの意識醸成、人材養成を行う。 ④地域でのボランティアきっかけづくり講座の開催（社協側面支援） ⑤4つのとびらで人やまちとつながろうの活用（社協側面支援）</p>
<p>5 身近に集う場所が分からない</p>	<p>①既存の集いの場の見える化をし、住民への情報発信、周知を継続する。 ②各世代や男性の集う活動場所を広げる。 ③敬老会開催の事務局負担が大きいため、濁川全体として敬老会を開催する。 ④地域情報を支え合いのしくみづくり会議（生活支援コーディネーター）が集約できるよう地域が意識する。 ⑤交通の手段が無く参加できない方がいる。 ⑥支え合いのしくみづくり会議の研修会を継続し、リーダーの育成と自治会の理解・支援の促進を図る。</p>
<p>6 食料品・日用品を購入できる場所と機会がない</p>	<p>①高齢者世帯中心に買い物に関するニーズ調査を行う。 ②他地区の実践事例を学ぶ機会を設け、地域それぞれでできることを取り組む。 ③公共交通の検討も必要。コミュニティや自治会で考えていく必要はある。 ④支え合いのしくみづくり会議での検討を継続し、買い物支援ボランティア（買い物代行、ネット注文支援）を育成する。</p>
<p>子ども支援、子育て世代への支援</p>	<p>次期計画の課題に、子ども支援、子育て世代への支援の項目を加えて欲しい。</p>

■ 住民の取組み

■ 支え合いのしくみづくり

■ 側面支援

【葛塚地区】地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
1. 困ったときの相談先がわかりにくい	<p>①コミ協・自治会等の広報紙について、読み手の現状を把握するためサンプリング調査やアンケートによる検証を行う。その結果を踏まえ、伝える内容や方法等について検討をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施する必要がある。対象のサンプリングは要検討。 ・情報媒体に関しては調査が必要。 <p>②コミ協・自治会等で広報誌の発行を継続する。（年11回）</p> <p>③コミ協・自治会等各広報誌に相談先に関する記事を掲載する。 [②・③共通]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状では相談先は記載されていない。広報誌を出すだけでは周知されない。 ・ケーススタディから（相談対応事例）理解は進む。 ・外国人等に対する相談先もあるとよい。（多様な相談への対応） （側面支援）自治会広報誌のネタ（情報提供）があれば出しやすい。 <p>④困った時の相談先のチラシを、地域の茶の間等住民が集う場で配付・説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙以外にも、相談先を知る、周知する方法はある。
2. 障がいや障がい者への理解が必要	<p>①行政等が実施するイベント以外でも障がい者と交流する機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状イベントに参加しており、今後も参加できる。 ・イベント出店協力+αの取り組みも必要。 （側面支援）自治会役員や民生委員に対して障がい特性を理解してもらう機会を創出する。 <p>②コミ協事業等において、障がい者が参加しやすい配慮、障がいに対する理解が進む工夫を加えて実地する。 コミ協自治会住民でも障がいについて理解する場を設ける。 （側面支援）障がい者と障がい特性を理解し共生している取り組み例を提示する。</p> <p>③ぷれジョブ北など、障がい者を理解する活動、障がい者を支援する活動に住民が積極的に協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に障がいの人と接するだけでも理解は深まる。

<p>3. 自治会、住民、民生委員の連携強化など、支え合いの仕組みづくりが必要</p>	<p>①コミ協等の現在の活動を継続し、必要であれば新たな活動に繋げる。 ・それぞれの構成員の役割を明確に示す必要がある。 ・自治会の組織体制を活かし組織を作る。(箱を作るところから始める)</p> <p>②無関心層(若手)に活動に参加、関心を持ってもらうための工夫をし、担い手を増やす。 ・自治会の組織体制を活かし組織を作る。(箱を作るところから始める)</p> <p>③支え合いのしくみづくり会議での取り組みを推進する。 ・地域包括ケアシステムとの関連性について整理は必要。</p>
<p>4. 老人クラブの参加や担い手が高齢化のため減少し活動が狭まってきているため活性化が必要</p>	<p>①多様で年代にとらわれない、また男性が参加しやすい親睦団体(茶の間、サロン、サークル等)の活動を活性化させる。 ・さまざまな工夫をし活発なクラブも存在する。 (側面支援)交流会や情報交換会の機会を創出する。 助成金の手続きがめんどうで申請しない⇒極力簡素化する。</p> <p>②リーダーの育成は、既存の研修とともに支え合いのしくみづくり会議発信の研修にも意欲的に取り組む。⇒方針OK</p> <p>③既存の集いの場の見える化と情報発信を進める。 ・年間予定表もあると良い。</p>

【木崎地区】地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
<p>1. 認知症が増加しているが、家族が発信しない現状があり、どう関わってよいかわからない。</p>	<p>①地域の茶の間（サロン）活動を継続して行い、高齢者の地域での孤立を防ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の茶の間（サロン）では、認知症の人を受け入れられる状態でない。地域で取り組むには難しい。→取り組みとしては必要ないのでは？ ・認知症の疑いがある人の判別ができない。←見るべきポイントはある。 ・茶の間に行ける人はよいが、行かない人・行けない人をどう考えるか。 ・自分の意志で行かない人はいる（家に自分の楽しみを持っている等）。 ・行けない人を気にする意識が必要。 <p>②認知症に関する相談窓口の周知を継続し、多世代に向けた認知症サポーター養成講座を様々な機会で開催する。（認知症への理解・見守り意識の醸成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初から具体的な対応となると難しいが、理解や意識を醸成させることから始めるのは良い。 ・地域内での認知症の状況がわからない（どのくらい存在するのか）。 ・家族が外に情報を出したがない（重度になれば声に出るかも）。 <p>③コミ協等で大学等と連携した認知症をテーマとした講座を開催し、認知症に対する理解度の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く住民全体の意識を上げるためには良い取り組み。 ・今後もコミ協福祉部としても研修会を開催したい。
<p>2. なじらネットワークの充実を図るなど、支えあいの仕組みづくりが必要。</p>	<p>①支えあいの仕組みづくりについて検討を継続し、地域の中での理解、周知を行いながら具体的な活動につなげていく。⇒方針OK</p> <p>②あいさつ、見守り、声掛けが多くなるような住民全体の啓発活動を行い、互いにSOSを発信できる関係づくりをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや声掛けであれば現状でも行っている。そこから見守りへ発展すれば。 ・自治会の行事や廃品回収などでも住民同士の交流は行われている。 ・小中学校でのあいさつ運動が、地域住民のあいさつや声掛けを広げている <p>⇒顔が見える関係づくりから、防災活動にもつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は顔を合わせることも少なく、あいさつの返しもないこともある。一番余裕のない状況でもある。

	<p>③自治会内に福祉分野を担当する部門の設置を励行し地区全体でネットワーク化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに立ち上げに動いている自治会あり。(他メンバーから驚きの声) ・ハードルは高いと思うが、目的として設定することはよい。 ・立ち上げができるところから、積極的に立ち上げたい。 <p>小さい自治会は役員を中心に、大きい自治会は部会としての立ち上げ。</p>
<p>3. ボランティアの人材はいるが、ボランティア活動につながらない。意識やきっかけなど育成が必要。</p>	<p>①小・中学校との地域住民の連携による福祉活動を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針可否の意見交換は出来なかった。 <p>②ボランティア活動の担い手や運営リーダーの育成を行うために、若い世代が参画しやすい仕組みづくりや工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は“ボランティア”という単語に拒否反応があるように見える。一方、地域行事の手伝いで役割を与えると、そこそこ協力する。 ・声掛けや工夫で若い世代の参加を促し成功している自治会も有り、取組み方針としては良い。 ・地域の中の多世代行事(祭・賽の神)を活用し、参加・参画しやすい働きかけを行っている。 ・それぞれの世代に役割を持たせ(PTA・育成会・サロン等)活躍する場づくり。 <p>③地区内の全住民を対象に、ボランティア活動、福祉活動、コミュニティ活動に関する意識調査(アンケート調査)を実施し、対策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のことを見据えた時、意見を聞いておくことはよい。 ・地域内で若い世代と会うことがない。 ・地域活動に対する意識を確認するためにも、調査は必要。それをもとに、検討もできる。若い人が地域活動への意識を高める、アプローチにもつながる。 ・自治会内で、学校でのつながりから「おやじの会」ができ、地域活動にもつながっている。
<p>4. 子ども(未就学児童)や高齢者が集える場が不足している。</p>	<p>①自治会やコミュニティ等で多世代交流事業を充実させ、地域住民が集う場を大切にする。</p> <p>側面支援：地域ふれあい事業・歳末たすけあい事業(社協)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会ではすでに様々な事業を行っている。方針OK。 ・子供の数が減ってきているので、複数自治会での合同開催や実施主体の変更(育成部→営農組合)等の工夫も必要。 <p>※課題3②と同様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の多世代行事(祭・賽の神)を活用し、参加・参画しやすい働きかけを行っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの世代に役割を持たせ（PTA・育成会・サロン等）活躍する場づくり。 <p>②集いの場の情報を整理・見える化とコミ協だより等を通じて住民への情報発信に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方針可否の意見交換はできなかった。 ・子どもの遊び⇒個々でのゲーム・スマホ等で会話がいない現状。 ・公園で遊んでも、利用時のマナーが悪い（ゴミ・使い方・ボールでの窓ガラス破損等）現状があるが、身近な遊び場所・集まる場がないことの裏返し。 ・地域の茶の間の他にも、公園や施設の情報も含め発信する。
<p>5. 地域の茶の間の担い手が高齢化し減少している。後継者が不足している。</p>	<p>①男性が参加・参画しやすい茶の間活動の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自治会、茶の間では苦勞しながらとりくんでいる。今後も取り組みは必要。 ・男女の特性があり、同じ楽しみを持つのは難しい。 ・アルコールを出せば参加が増えるが、目的が違ってしまう。楽しみと役割に分け、検討してはどうか。 ・全員が同じことを楽しまなくともよいのではないか。 <p>②リーダーや担い手の育成については、支え合いの仕組みづくり会議およびコミュニティ協議会との協働で研修会を開催し、意識醸成や育成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の方向性としてはOK。 ・今回のような座談会にも、地域の茶の間（サロン）の担い手の方、次世代の担い手の方にも参加してもらおうべき。 <p>側面支援：地域の茶の間年の交流を図るためのコーディネート（社協）</p> <ul style="list-style-type: none"> ：敬老会など自治会が事業を進めやすいように、対象者名簿の提供などの協力があると良いが、行政からの提供は不可。 独自に情報を集めて取り組んでいる他の自治会等の情報の提供で側面支援は可能。 ：リーダー研修を実施し次世代の担い手にも参加してもらえようなしかけを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・代表者に任せきりにせず、次に引き継ぐやり方が必要。 ・担い手、参加者の高齢化と運営（お金の管理・メニュー等の企画等）の難しさがある。 ・担い手⇒育成、運営⇒事務的内容の側面支援（助成金手続等）が必要。
<p>6. 夜間開業医が区内におらず対応できない</p>	<p>課題から落として良いと思いますが・・・あえて</p> <p>①住民の夜間対応の実態を把握する。（事例の収集・整理・発信）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で取り組む課題にはそぐわない。 ・夜間の救急時はだいたい、救急車を呼ぶか紫竹の急患センターに向かっている。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">• 課題としては住民で解決できないため、残さず。• 地域の現状と要望として、伝えて行く。 |
|--|---|

【岡方地区】地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性（案）

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性
1 隣近所で日常のつながりがなく、関係が希薄になってきている	<p>①避難行動要支援者名簿の活用方法や運用面での指導やフォローが必要。また、名簿の活用ありきでなく、まずは各自治会において隣近所での助け合いやつながりを大切にする。</p> <p>②自治会や団体の活動に対して、無理のない範囲で適切な助成金や支援を行っていく。</p> <p>③回覧板も手渡しして声かけをする等、日頃から顔を合わせることで、地域全体として見守りを心掛ける。</p>
2 定年後の男性が外出する機会が少ない 活動する場所が少ない	<p>①様々な団体が関わっている環境保全会では男性が活躍できるような取組み等も引き続き取り入れる。男性はやはり飲みにケーションが重要である。活動することだけでなく懇親会等楽しみ取り入れることで次の活動にもつながる。地域の伝統行事（神楽等）を活かした活動等、行事を行うときに人が多く集まるような工夫を取り入れる。</p>
3 ボランティアの人材はいるが、ボランティア活動につながらない。意識やきっかけなど育成が必要	<p>①講座を開催する際は、具体的なわかりやすいネーミング等にするなどして、参加者が参加したくなるような周知・広報をする。</p>
4 子どもと高齢者の交流の場が減り、つながりが少なくなっている	<p>①今後もコミセン・児童館等を拠点としたイベントを開催する他、花街道プロジェクトといった多世代で関わりを持てるような取組みも行っていく。</p> <p>②今後も地域の伝統行事・芸能活動の継承を通じて、子どもから高齢者まで多世代が広く集える行事等を行い、積極的に多世代交流を行う。 地域ふれあい事業助成の活用。（社協側面支援）</p>
5 地域の茶の間の参加者や担い手が減少している 後継者が不足している	<p>①地域の茶の間を継続して実施していくには、担い手の育成・確保の取組みも必要。また、担い手の負担感を減らすことが重要である。助成金の申請方法等についてもフォローをしていく。</p> <p>②地域の茶の間やサロン、地域の行事等を通じて、世代を越えた集える機会を増やす。</p>

【長浦地区】地区別地域福祉活動計画

具体的な取り組みの方向性と意見

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
<p>1 老人クラブの加入者および参加者が減少している ⇒「高齢者の社会参加の増進」として3つ目の課題と統合する</p>	<p>①老人クラブへの加入やメンバーを増やすことは、それ自体が目的ではなく、高齢者が社会性を持つための一つ的手段として捉える。 ⇒評価の対象から除外するかどうかを検討した結果、課題3と統合する</p> <p>②高齢者が社会性をもつため一助となるよう啓発・情報発信を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブの組織率も減少し、活動も以前に比べると活発とは言えない。 ・高齢者の活動自体も「老人クラブ」の枠にとらわれていない。 ・老人クラブより地域の茶の間、サロンの方が活発である。
<p>2 独身者でひきこもってしまう人がいる</p> <p>新興住宅地では、働いている人が多く、住民同士が触れ合う接点を持たない</p>	<p>現在、取組みがしっかり行われているので、課題としては終了する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身者の定義としては、8050世帯が主な対象である。課題としてはなくなるが、引き続き他の課題と包含して対応する。 ・コミセン買い物バス事業や困りごと相談会、勉強会では利用者がほとんどいない。本当は困っているが、声を出すほどではないと思っているかもしれない。また、地域の助け合いで困りごとを解決しているからかもしれない。
<p>3 高齢者が社会と関わりを持ちたがらない、また、外に出ない</p>	<p>①地域の茶の間やサロン、地域の行事等を通じて、世代を越えた集える機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りに迷惑をかけないように、と外出を控える高齢者もいる。また、その家族も外に出たがらない。本当は地域行事に参加したいと思っているかもしれないので、地域全体で高齢者の社会参加に対する意識を変えていく。 <p>②高齢者が社会性をもつため一助となるよう啓発・情報発信を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が気軽に立ち寄れる場が必要（単純なお茶飲み場のような） ・地域の茶の間やサロンでは個人の車での送迎が多くなってきた。支え合いの機運が広がってきている。
<p>4 地域の居場所がない・皆に来てもらいたい</p>	<p>①空き家を活用することは容易ではなく、地域でできることは限られている。 ⇒評価の対象から除外するかどうかを検討した結果、課題から除外する</p> <p>②各自治会やコミセン等で様々な多世代交流事業や地域の茶の間が行われているので、今後も継続していけるように担い手育成と体制基盤を強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉とは地域住民が幸せに過ごすことであり、永遠の課題である。 ・アパート世帯からは自治会費をもらっているが、つながりがない。困りごととも上がって

	<p>こない。⇒長浦全体としての課題であれば、新規に課題を設定する。</p> <p>③誰もが参加しやすい居場所づくりについて、担い手交流会や他地区の視察等を行い、運営の工夫に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ふれあい事業助成の検討：補助金ではなく、交付金対応（社協側面支援） ・活動者の横のつながりは必要。リーダー交流会やつながりの場があるとよい。
<p>5 少子高齢化・子どもが増えない・結婚しない人が増加 ⇒現在の課題は課題でなく意見であるので課題としては、「住みたい地域にする（地域の活性化）」とする</p>	<p>①公民館等で子育て支援事業を行っているところもある。引き続き、子育てサロン（子どもの居場所）が増加するように支援を行う。</p> <p>子育て支援事業助成の活用（社協側面支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校までは比較的近距離だが、中学校からは遠くなり、通学が大変になる。若者が流出している。 <p>②せっかくガイドマップ等を作成しても内容が最新のものでないと意味がないので、更新がしやすいように作成する。</p> <p>③コミ協だよりは長浦地区の広報誌として住民に十分浸透しているが、「支え愛通信」も含め、若い世代がより手に取るような紙面構成に努める。（広報媒体の検討も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、コミセンで行政補助事業による婚活事業を実施した。長浦地区からは参加者0であったが、地域の方の協力もあり、よい取組みであった。 ・課題と取組み方針がマッチしていない。現在の課題は課題でなく意見である。この内容で課題とするのであれば、a) 住みたい地域にする（地域の活性化）か、b) 子ども育成に関することのどちらか。⇒a) とする。 ・自分から「助けて」と言える「地域づくり」「気風」が必要である。 ・お互いが見えること、信頼関係が大事である。

【早通地区】地区別地域福祉活動計画 具体的な取り組みの方向性

現計画（課題・意見）	具体的な取り組みの方向性と意見
1. 困ったときの相談先や地域の交通情報などの情報や相談先がわかりにくい	①受け手が活用しやすいような情報の提示を考える。 ・「関心のあるもの」「対象設定」など「時間をかけずに見やすく」することで、情報発信から口コミで広がる。 ②情報誌は各世代に読んでもらえるような工夫が必要。 ・例えば、50～60代の男性にも介護や福祉に興味を持ってもらえるような工夫 ・学校・健康福祉会館・茶の間・サロンからの幅広い情報を載せる等 ③広報紙についての読み手の意識に関するアンケート調査を行う。 ④情報を的確に伝えるための繋ぎ（ワンクッション）の工夫。
2. なじらネットワークの充実を図るなど、支えあいの仕組みづくりが必要	①支えあいのしくみづくりや見守りの意識をさらに広めるために、若い世代にも参加してもらえる働きかけが必要。 ・ボランティア（地域活動）研修等を開催する。 ②定期的な研修や広報において、ささえ愛ネットの活動への理解を広める。 ・ささえ愛ネットの活動報告や実績について、自治会長や地域住民へ伝える。 ・ささえ愛ネットの活動を充実させる。 ③若い世代が参加しやすい働きかけの工夫をする。 ・直接の声掛けや土日の活動、SNSを利用したPR等
3. 多世代の住民が集える活動や交流できる拠点が必要	①既存の施設において、若い世代が多く利用しやすいような利用増進に向けた取り組みを行う。 ②施設や学校等と単独ではなく地域との協働を含めた交流(横串の連携)を今後も継続して行う。
4. 緊急時の医療体制や訪問診療・夜間対応の充実など医療機関との連携が必要	※課題としての検討はせず